

インドネシア共和国スラバヤ市における デングウイルス媒介蚊の幼虫殺虫剤の実証試験

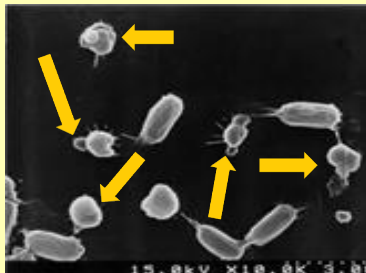
(株)九州メディカル

北九州市「中小企業アジア環境ビジネス展開支援事業」(2015年度)

東アジア地域において蚊が媒介するデングウイルス感染症(デング熱)が都市部において拡大し社会的問題となっている。当事業では、同社が開発した微生物が産生する殺虫タンパク質を利用した、環境負荷の少ない蚊の幼虫殺虫剤「MOSNON(モスノン)」について、インドネシア・スラバヤ市において野外散布を行い、蚊の低減効果を実証する。

MOSNON

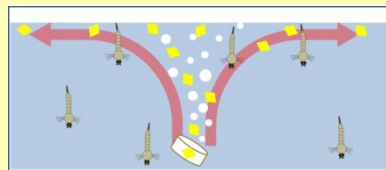
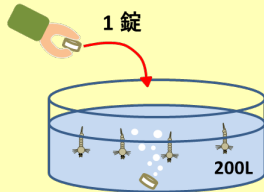
- ①蚊の幼虫のみに殺虫活性を示す。
人畜・環境への影響が極めて少ない。
- ②錠剤のため、ヒューマンエラーを最小限にできる。
- ③発泡による有効成分の拡散と誘引物質を入れることで、効率よく殺虫できる。



殺虫タンパク質



殺虫タンパク質入り錠剤(MOSNON)



【実証概要】

環境にやさしい幼虫殺虫剤
MOSNONの散布



幼虫(ボウフラ)数の減少



成虫(蚊)数の減少



投げ込むだけの簡単使用



幼虫のカウント



成虫のカウント